

水俣病対策二千万円

▽衛生部―松橋療養園は二十四百三十三万円をかけて五十床ふやす。また同園と小川再生院、桜ヶ丘療養所の看護婦はこれまで二交代制をとっていたが、労働基準局から法規違反の指摘を受け、新年度から三千人増員することになった。人件費は三百三十万円。総核対策費七千万円、成人病対策費五十八万円は前年度とほぼ同額である。

▽民労部―職業訓練所は県議会から施設の拡充が要望され、ノコの

目立て科新設費四百八万円、備品充実費三百四十四万円、寄宿舎改造費など百四十八万円が計上された。

生活保護家庭はふえる一方で、新年度は二千七万三千四百余人が対象となる見込みで、六億一千四百五十二万円が計上された。前年度より二千八百万円の増である。また保育所などへの児童扶助費も二百二十万円増の一億二千八十四万円となった。

▽商工水産部―老朽化した試験船

「球磨丸」の代船（三十ト、百二十馬力、木造）建造費九百万円、三角町のノリ繁殖研究室設備費五

百十二万円、工業試験場に対する工場廃水試験機材購入費百四万円、国体参加のため来熊する県外選手の阿蘇山招待費三百万円などが目新しい。

水俣病対策関係では漁業転換費六百二十七万円（いか釣り二十隻、ブリ釣り十隻分）真珠母貝

繁殖補助一千四百六万円などが計上されている。

総計余裕金の中小企業向け融資は昨年度の三億円（中元、年末、各一億五千万円）は五億円に増やされた。中元二億円、年末一億円である。